

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：防災費 目：防災総務費

事業名 防災資機材等整備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

危機管理部 防災課 防災企画係 電話番号：058-272-8189(内2839)

E-mail：c111115@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,626 千円 (前年度予算額： 2,509 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,509	0	0	0	0	0	0	0	2,509
要求額	3,626	0	0	0	0	0	0	0	3,626
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

阪神・淡路大震災や東日本大震災の発生に続き、岐阜県においても近い将来、「超」広域にわたり甚大な被害をもたらす南海トラフ巨大地震の発生が懸念されている。このため、不測の事態に対応できるよう、市町村で水、食料、生活必需品等の災害発生後直ちに必要となるものや災害対応資機材を、県では市町村が整備する以外の使用頻度は低いが利便性の高い資機材や備蓄品等を整備しているところである。

これらの資機材や備蓄品の中には、購入してから経年劣化により、故障、破損するものや、定期的に保守点検を行う必要なものがある。また、消耗品等は有効期限が切れて災害時に有効に活用できなくなるものもあるため、これらを更新する必要がある。

(2) 事業内容

- ア 消耗品等の更新：有効期限が切れる下記の消耗品等を補充する。
 - ・災害対策用造水機用消毒薬
 - ・救急セット用消毒薬
 - ・携行型浄水器用フィルター
- イ 資機材の更新：故障して使用ができなくなっている資機材を更新する。
 - ・可搬式発電機
- ウ 資機材の点検：以下の資機材について1年に1回点検を行う。
 - ・災害時入浴システム（2セット保有）
 - ・自律分散型水循環システム屋外シャワーキット（5セット保有）
 - ・携行式風呂セット（6セット保有）

(3) 県負担・補助率の考え方

県の保有する資機材、消耗品を整備・購入するものであるため県が負担することが妥当。

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
需用費	300	発動発電機
消耗品費	581	浄水器用取替フィルター, 救急セット内容物更新
委託料	2,745	災害時入浴システム、シャワーキット、風呂セットの定期点検
合計	3,626	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県地域防災計画 一般対策計画 第17節 必需物資の確保対策

(2) 国・他県の状況

他県においても備蓄資機材を管理し、かつ使用期限を迎える消耗品については定期的に更新している。

(3) 後年度の財政負担

今後も同額を継続見込み。

(4) 事業主体及びその妥当性

県の災害備蓄資機材であり、県が主体となって実施することが妥当。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

南海トラフ巨大地震等の大規模災害発生時に、対応が困難となった市町村を支援するため、緊急に必要な物資、資機材の備蓄、調達及びその維持管理を行う。

これらの資機材の中には、経年劣化や、消耗品等にあつては有効期限切れ等により災害時に有効に活用できない恐れがあるため、順次更新を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R5)	R6年度 目標	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

経年劣化等した消耗品を更新するものであり、目標設定に馴染まない。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	災害時用入浴システムの点検を行った。 また、有効期限切れした消耗品等を補充、必要な資材の調達を行った。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和5年度	有効期限切れ又は消費した消耗品等を補充し、常に万全な状態を維持した。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和6年度	災害時用入浴システムの点検を行い、災害対応の体制を確保した。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</p> <p>3: 増加している 2: 横ばい 1: 減少している 0: ほとんどない</p>	
<p>(評価)</p> <p>3</p>	<p>大規模災害発生時には、調達先の被災、搬送の遅れ等で資機材を確保できないことから、県において資機材を備蓄し、活用することで、円滑な災害対応を実施できるため、事業の必要性が高い。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</p> <p>3: 期待以上の成果あり 2: 期待どおりの成果あり 1: 期待どおりの成果が得られていない 0: ほとんど成果が得られていない</p>	
<p>(評価)</p> <p>2</p>	<p>大規模災害発生時に必要な防災資機材の確保を図るとともに、平成23年度は東日本大震災の被災地へ簡易トイレ等の備蓄物資を提供し支援の役割を果たした。</p>
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</p> <p>2: 上がっている 1: 横ばい 0: 下がっている</p>	
<p>(評価)</p> <p>2</p>	<p>資機材を県広域防災センター(各務原市)と飛騨総合庁舎(高山市)に分散備蓄し、災害現場に速やかに資機材を提供する体制をとっている。</p>

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項
防災資機材は膨大にあり、これらすべてを災害時に有効に活用するため平常時からの動作確認や定期的なメンテナンスを継続的に行う必要あり。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
風水害の頻発化、激甚化が懸念されるなか、迅速な災害対応を実施するために必要な資機材の備蓄体制を維持していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	